

## 令和2年度第3回 小平市環境審議会 会議要録

### 1 日 時

令和2年9月25日（金） 午後2時～午後4時

### 2 開催方式

小平市庁舎 大会議室

### 3 出席者

○小平市環境審議会委員 10名

奥真美会長、中島裕輔副会長、小口治男委員、中川都委員、西村守正委員、服部千春委員、井内真委員、三島雄介委員、小柳知代委員、青山一彦委員

○事務局 15名

環境部長、環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課環境対策担当係長、環境政策課計画推進担当2名、資源循環課長、資源循環課長補佐、水と緑と公園課長、水と緑と公園課長補佐2名、水と緑と公園課緑化推進担当係長、下水道課長、下水道課長補佐、下水道課計画担当係長

### 4 傍聴者

3名

### 5 議 題

- (1) (仮称) 小平市第三次環境基本計画の素案の検討について
- (2) (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画の素案の検討について
- (3) (仮称) 小平市第二次下水道プランの素案の検討について
- (4) その他

### 6 配付資料

資料1-① (仮称) 小平市第三次環境基本計画素案 (素案 たたき台)

資料1-② 小平市の環境に関する事業者アンケート調査報告書

資料1-③ 第1回 Web 意見交換会 (第2回市民ワークショップの代替) 実施報告

資料1-④ 第2回 Web 意見交換会 (第3回市民ワークショップの代替) 実施報告

資料1-⑤ 地域懇談会の開催及び説明動画の配信について

資料2 (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画素案 (素案 たたき台)

資料3-① (仮称) 小平市第二次下水道プラン 概要 (素案)

資料3-② (仮称) 小平市第二次下水道プラン (素案)

### 7 内 容

(1) (仮称) 小平市第三次環境基本計画の素案の検討について

(事務局)

資料 1-①に沿って説明。

(委員)

第二次環境基本計画では、環境家計簿について数値目標を掲げていたが、第三次計画では掲げないのか。

(事務局)

環境家計簿については、第二次計画で重点施策として登録者数を数値目標に掲げて取り組んできた結果、登録者数は大幅に増加したが、実際に利用している割合となると少ない状況である。現在、環境家計簿の利用件数を数値目標として掲げるか検討している。

(委員)

環境家計簿アプリと表現されているが、従来のパソコンによる Web も含まれているか。

(事務局)

パソコンとスマートフォンの両方を想定している。

(委員)

具体的な取組に「公共施設における再生可能エネルギーの最大限の活用」という表現があるが、最大限の活用の具体的なイメージはあるのか。

(事務局)

これまで公共施設に太陽光発電システムの設置をかなり進めてきた。設置済みの設備をもっと活用できたらと考えている。例えば、蓄電池や電気自動車の導入により、太陽光発電システムで創られた再生可能エネルギーをもっと活用するなど、様々な方法がある。

(委員)

第 7 章エコダイラ・オフィス計画におけるエネルギーの有効活用の取組で、「非常時の再生可能エネルギーの活用方法の啓発を図ります」、「公共施設の休館日における太陽光発電の余剰電力分の活用方法を検討します」とあるが、最大限の活用とはこのようなイメージではないか。

(事務局)

そのような活用方法も重要である。太陽光発電システムには自立運転機能もあるので、非常時の活用についても周知していく。

(委員)

太陽光発電システムを設置していても自立運転機能を知らない人が多いので、災害時あるいは停電時に、自立運転機能を活用して昼間に電気を使用するための啓発などをこの計画に位置付けられないか。

(事務局)

38 ページでは、具体的な取組として「効率的なエネルギー利用に関する情報発信」を位置付けているほか、40 ページでは、市民や事業者、市民団体などからいただいた意見を踏まえて、「再生可能エネルギーの導入を進めるほか、災害対策として蓄電池の導入を進めます」などを掲載している。このような取組も踏まえ、自立運転機能についても普及啓発していく。

(委員)

38 ページの施策 3「気候変動への適応」では、今後考えられる集中豪雨について、具体的な取組にハード面としての対策が挙げられているが、ソフト面としてハザードマップの浸透、普及などを位置付けてはどうか。

(事務局)

気候変動への適応の施策では、環境分野と関連の深いものを精査して位置付けている。

なお、ハザードマップなど人命にかかることは非常に重要なので、40 ページにコラムで「命を守る適応策」として掲載することにした。

(会長)

防災関連については地域防災計画があるので、環境基本計画ではコラムとして記載することで、整理をしたということである。

(委員)

施策によって数値目標の数に差があるので、なぜこの数値目標を選んだのか、掲げることでどのような効果が生じるのか、背景が記載されていた方がよい。

基本方針Ⅲ水と緑と生きものとの共生の施策 1 で、生きもの調査の継続性を示すために、数値目標に生きもの調査を掲げられないか。

また、施策 2 で掲げている数値目標の農地面積は、減少面積の抑制とのことだが、目標値の根拠や、目標年度を 2027 年度としていることの説明があるとわかりやすい。

(会長)

具体的な取組が列挙されている中で、数値目標を限定して選んだ理由が文章からはわからない。数値目標設定の基本的な考え方を伺いたい。

(事務局)

数値目標については、関係課との調整や財源的な面などを踏まえて、掲げられるものを極力掲載した。このような事情もあるため、具体的にそれぞれの数値目標の背景などを示すのは難しい。

(会長)

生き物調査を指標化する場合、具体的にどのようなことが考えられるか。

(委員)

市民による調査を行ったとのことだが、この市民調査を毎年継続的に実施することなどが掲げられないか。

(事務局)

昨年度に実施した市民参加型生き物調査などは、次期計画の策定のために予算がついて実施した。継続的に実施となると、市のみで実施か、市民を交えるのか、市民団体に加わってもらうのか、業者に委託するのか、方法によって経費も変わるため、数値目標で明確に示すことは難しい。ただ、生きもの調査の重要性は認識しているので、重点プロジェクトに生きもの調査を位置付けて、しっかり取り組んでいく。

農地に関しては、農業振興計画で、目標数値、目標年度が掲げられており、所管課と調整のうえで設定することとした。

(会長)

具体的な根拠はそちらの計画に記載されているのか。

(事務局)

農業振興計画には根拠が記載されている。

(委員)

基本方針Ⅱ循環型社会の形成のリサイクル率の数値目標について、小平市はリサイクル率の高い自治体に囲まれており、2019年度の35%はかなり低いリサイクル率であるが、ごみ有料化の実施などにより、今後増加すると思う。10年かけて取り組むため、目標値を数値できちんと示した方がよい。同じ理由で市民一人1日あたりごみ総量の抑制も、前年度比減となっているが、意欲的な数値を設定した方がよい。

基本方針Ⅳ快適な生活環境の確保の「小平市の環境に対する満足度」についても、様々な施策に取り組むので、69.7%から0.3%の増加は、もう少し高めてもよいのではないか。

全体的な目標値のバランスなどを再度確認された方がよい。

(事務局)

リサイクル率については、各市で資源化している品目等が違うので一概に並べることができない。数値目標については、2021 年度に一般廃棄物処理基本計画を改定する予定のため、その際、検討することになる。そのため、このような表記としているが、書き方について検討する。

小平市の環境に対する満足度については、市で定期的に行っている世論調査で、小平市の環境全般に関しては非常に満足度が高い状況であり、近年の調査でもあまり数値が動いていない。それを考慮して、満足度の高い状態を維持するとしたが、いただいた意見を踏まえて検討したい。

(会長)

市だけではなく、市民や事業者が同じ方向を向いて、同じ目標を目指して取り組んでいく必要がある。なぜこの数値なのか、ここを目指すのかというところは、しっかりと説明する必要がある。計画の中に詳細を書き込むのが難しいことはわかるが、ストーリーをしっかりと描く工夫をお願いする。

(委員)

みどり率については 2007 年の 35.8%から、2017 年は 29.6%と大幅な減少をしている。宅地化によるものが主要な要因だと思う。宅地に関する制限などを考えないと、計画を推進する際のネックになると懸念されるが、どのように考えているのか。

(事務局)

宅地の制限については難しい問題である。都市計画課で、宅地開発に関する条例に基づき事務を行っている。生産緑地法の改正などがあり、農地をできるだけ維持する方策はいろいろと検討されている。宅地の制限は、現行制度の中では難しいと思うが、課題として担当課の方には伝えたい。

(委員)

50 ページにみどり率の数値目標が示されており、2017 年と 2030 年で同じ数値のため、現状維持ということだが、維持することは大変なことである。

(委員)

46 ページの施策 3 適正処理の維持・向上の具体的な取組「家庭廃棄物の適正排出指導」、「事業系廃棄物の適正排出指導」について、家庭ごみ有料化から 1 年以上経ったと思うが、市民のごみの分別がまだ 100%に近い形でできていなかったり、一部難しい家庭などもあって、この指導をしているのか。

(事務局)

100%分別ができていない方はなかなかおらず、出前講座などでの啓発も含めて指導している。事業者なども少量排出では市のごみに出すが、その分別が悪かった際には、市の職員が出向いて直

接指導もしている。

また、分別自体が難しくできないといったご高齢の方も大勢いるので、ケアマネージャーなどがいる団体への講座もして、排出指導をしている状況である。

(委員)

先ほどの生きもの調査の件で、今後、気候変動の影響により、新たな外来種なども定着してくるため、調べる生きものについて、種の選定などの考慮をお願いする。

(委員)

37 ページの基本方針 I の施策 1 省エネルギーの推進の具体的な取組に、「断熱材などの環境配慮型建材の使用」とあるが、断熱材を多用して高断熱化することと、断熱材の中のフロンガスをなくすために、環境に配慮した断熱材を使うということの、どちらを想定しているのか。

(事務局)

高断熱化を推進することを示している。先の環境審議会で「断熱改修の促進」と表現していたところで、改修には経費がかなりかかるなど難しい中で、このような表現に変更した。

(委員)

高断熱化ということであれば、窓の断熱化の推進などの方がシンプルでわかりやすい。

(事務局)

技術部門の部署との調整の中で、このような表現になったが、いただいた意見を持ち帰って再度検討、調整する。

(委員)

コロナ禍でリモートワークが増えると、家庭でのエネルギー使用量が増加して二酸化炭素排出量も増えていく。住宅では内窓設置などの断熱改修もあるので、公共施設に限らず記載してもよいと思う。

もう一つ、具体的な取組に「エネルギー使用量の把握」があるが、公共施設だけを考えているのか、環境家計簿アプリと連携して家庭の方も把握しようとしているのか。また、それをどう活用することを考えているのか。

(事務局)

エネルギー使用量の把握については、公共施設だけに限らず、市民の方も環境家計簿や、太陽光発電のモニター装置などで把握することなども含めている。

(委員)

施策の説明に市民一人ひとりの省エネ行動の深化を図ると記載されているので、有用な省エネ情報の発信などを数値目標に入れられないか、公共施設の目標だけでなく、市民が絡む目標も何か一つ入れることを検討してほしい。

(会長)

54 ページの市民団体の取組に、「在来種の保全や外来種対策に協力します」とあるが、市としてはどうするのか。

(事務局)

52 ページの施策 2 の具体的な取組に「緑地などの在来種（希少種）の保全や外来種対策」を位置付け、生態系に影響を及ぼす外来種対策などに取り組む。

(委員)

希少種に焦点をあてた生き物調査をされると思うが、現実的には外来種にかなり侵略されてきているため、それを早く見つけて駆除するということが必要である。

(委員)

10 ページのゼロエミッション東京戦略の記載について、策定の時期が 2019 年の 5 月になっているが、実際には 12 月である。

また、下段の 2030 年と 2050 年の政策目標について、言葉足らずな部分があるので、確認していただきたい。

もう一つ、小平市は生物多様性地域戦略を初めて策定して、環境基本計画に包含するというところでよいか。

(事務局)

ゼロエミッション東京戦略の記載については確認して修正する。

当市での生物多様性地域戦略の策定は初めてである。

(会長)

38 ページの具体的な取組に「気候変動適応策の分野間での横断的連携」とあるが、分野間とは市役所内での部署間を意味するのか、何を意味するのか読んだだけでは意味が取れないため、内容が伝わるようにしてほしい。

また、44 ページの数値目標「燃やすごみに含まれる可燃性資源の割合」について、可燃性資源は何を指すのか。この言葉からはすぐにイメージが浮かばない。

(事務局)

燃やすごみの中に、雑がみと言われるお菓子の箱や包装紙などの保有率が高いので、それを除

くということである。

(会長)

43 ページの具体的な取組では「雑がみの削減の推進」と書いてあるので、雑がみと書いて合わせるか、注釈を付けた方がわかりやすい。

## (2) (仮称) 小平市第二次みどりの基本計画の素案の検討について

(事務局)

資料 2 に沿って説明。

(委員)

みどりを保全するだけでなく、樹木が植えられていない箇所について緑化してほしいというような市民の意見もあったかと思う。33 ページの施策 (1) の重点取組「小平グリーンロードのみどりの保全」について、花小金井は桜の名所となっているが、老木化して伐採されているものもあるので、新たに苗が植えられるとよいと思う。樹木が増えることで木陰ができ、夏の暑い日なども散歩しやすくなると思うので検討してほしい。

(事務局)

みどりを増やす視点は市でも重要と認識しており、緑化可能な場所があれば検討していきたい。また、木陰としての機能についても、みどりの重要な機能であると認識している。

(委員)

樹木の根元にベンチがあることにより木陰で高齢者がくつろげるので、検討いただければと思う。

(委員)

市域を 3 つに分けた地域別の方針を定めているが、どの地域を重点的に進めていくというような考えはあるか。

(事務局)

地域の区分は都市計画マスタープランに準じており、地域ごとの特徴やまちづくりの方針などを記載している。計画の進め方としては、特定の地域を重点的に取り組むということではなく、市内全域を緑化重点地区として設定し、市全体で緑化施策に取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

29 ページのみどりの将来構造について、みどりのゾーンを 4 つに分けているが、ゾーンごとに関連する施策や取組が示されているとわかりやすいと感じた。



また、38 ページの (7) の施策名と取組の内容が合っていない印象を受けたので、取組内容に合わせて施策名を修正してもよいのではないかと考える。

40 ページの取組番号 38 の「みどりの再利用」は、どのような取組を想定しているのか。

(事務局)

「みどりの再利用」については、現在も行っている剪定枝をチップ化して再利用することなどを想定している。施策名と取組の内容の不一致については、わかりやすい記載となるよう検討したい。

みどりのゾーンについては、配布資料が白黒印刷のためイメージしにくい部分もあるかと思うが、いただいたご意見は参考にさせていただきたい。

(委員)

29 ページのみどりの将来構造について、28 ページでみどり率の現状維持を目標としているため、今あるみどりをそのまま維持していくという印象を受け、将来構造がわかりづらく感じる。開発等で減少していくみどりがある一方で、それを補うような緑化を行うことにより、みどりを維持していくということだと思うので、そのような文章を追加するとよいと思う。

(事務局)

わかりやすい記載となるよう検討したい。

(委員)

みどりの将来構造図のとおりイメージが実現できた場合のみどり率は試算しているのか。

(事務局)

特に試算はしていない。

### (3) (仮称) 小平市第二次下水道プランの素案の検討について

(事務局)

資料 3-①、3-②に沿って説明。

(会長)

施策Ⅱ-②「地震対策」の重要な管きよの耐震化について、中大口径管路 0.6km の耐震化を前期目標値としているが、所要の耐震性能を満足していない管路は現時点でどのくらいあるのか。

(事務局)

これまでの耐震診断調査の結果、市内に布設されている管路のうち円形管については、液状化現象の可能性も低いことから、所要の耐震性能を満たしているといえる。

円形以外の矩形等で所要の耐震性能を満足していない管路は 1.8km、また、耐震診断調査が未実施の管路 0.5km を含めた約 2.3km が今後の対策対象となる。

(委員)

施策 I-③「資源・エネルギーの有効活用」の下水熱導入検討について、下水熱ポテンシャルマップは現在未策定でこれから作成する予定なのか。未利用エネルギーを活用するためには、高齢者施設や病院等の熱需要が高い施設への積極的な情報提供が重要である。

(事務局)

次期プランでは、市内の下水熱ポテンシャルマップの作成のほか、ニーズの有無や下水熱供給可能箇所に関する調査等を実施するとともに、市報や市ホームページ等を活用し、事業者等に PR していく予定である。

#### (4) その他

(事務局)

今後の環境審議会日程を連絡。